

助け合いという協同組合の原点。 復興支援に息づいていました。



4年間で、延べ約1万5千人。
東日本大震災からの復興のために
JAグループ支援隊に参加した人数です。

写真は、宮城県南三陸町の菊畑。

額に汗を浮かべながら、畑の片付けを手伝っているのは、

生協や労働者協同組合、JAグループなど、

日本の協同組合でつくる「IYC支援隊」のメンバーたち。

これまで多くのJA職員が参加してきた「支援隊」ですが、

今回は、それぞれに復興支援に取り組んできた

協同組合の仲間たちが集まりました。

東日本大震災で津波に襲われたこの菊畑。

ガレキを除去し、塩がしみ込んだ土を削り、

あらたに土を加えて、やっと栽培を再開することができました。

人材確保が難しいなか、菊の手入れや畑の片づけを、

「支援隊」がお手伝いしてきましたのです。

「手助けしてくれる方たちのためにも、震災前以上の菊畑にして、

収穫の喜びを分かち合いたい」

生産者の方は、そう語ってくれました。

JAグループは、震災直後から

農家の経営再建を支援し続けています。

生産者にとっても、農畜産物を購入する生活者にとっても、

被災地の農業が再開することは、暮らしにとっての明るいニュース。

元の生活を取り戻すことができる、その日まで。

支援の気持ちを決して風化させてはいけません。

JAグループ全職員の強い思いです。

<http://www.ja-kizuna.jp/>



大地がくれる絆を、もっと。 JAグループ

